

令和6年度 立川市立新生小学校 学校評価計画・報告書

重点的に進める目標	学校評価計画			学校評価報告		学校関係者評価の概要	改善策
	昨年度設定した改善策の概要	評価項目	評価方法	結果(%)	自己評価		
確かな学力の向上	<p>◆本校が推進する「課題解決力」のうち、「根拠を明確にして、考え・表現する力」と「比較・関連付けける力」の育成に重点を置き、以下の点を重視して、学力向上策に取り組み、具体的な方策については、授業研究部、新設する学力向上推進委員会及びICT能力推進委員会が連携して策定し推進する。</p> <p>●すべての教科のベースとなる国語力の向上</p> <p>●ICTやデジタル教科書の利活用</p> <p>●「比較関連させる場面」や「既習事項の定着・活用」「根拠を明確にして考える学習活動の工夫」の充実</p> <p>●楽しく学び意欲を高める学習環境の整備と手だての工夫</p> <p>●自らの学びを振り返り、次の学び・行動につなげるまとめ学習の重視</p> <p>●本校が目指す「課題解決力」を育成するための、各教科等における重点を置く単元の設定</p> <p>◆企業と連携した「国語の「学力確認テスト(仮称)」の活用</p> <p>◆個人面談等の機会を通して、「学力確認テスト(仮称)」の結果等をコミュニケーションツールとして、学校と各家庭が一人一人の状況や、学力向上に向けた取組について共通理解を図る。</p> <p>◆学校より等、HPの活用を通して、子どもの学力や学習の様子、学力向上策の状況について情報提供を行う。</p> <p>◆授業参観については、その機会を2回増やすとともに、授業のねらいや大まかな流れ、身に付けさせたい力について事前告知に知らせる。</p> <p>◆新しい組織である、表現力推進委員会において、立川市民科と学級会活動を中心にして、子どもたちの思いや願いを大切にしながら、探究的な活動や自発的自主的な活動の充実を図る。</p> <p>◆立川市民科については以下の点から充実を図る。</p> <p>○今までの指導計画を見直し充実を図るとともに、カリキュラムマネジメントを意識して、他教科との関連を明確にする。</p> <p>○保護者・地域と連携・協働した学習の充実を図る。</p>	<p>◆課題解決力</p> <p>○課題意識をもつ力</p> <p>○根拠を明確にして、考え・表現する力</p> <p>○比較・関連付けける力</p> <p>○学んだことをまとめ次につなげる力</p> <p>◆社会参画力</p> <p>○自分たちや地域に思いや願いをもつ力</p> <p>○自発的主体的で主体的に行動する力</p> <p>◆個別最適な学びと協働的な学びを一体とした学習展開の工夫</p> <p>○課題解決型の授業の充実</p> <p>○グループ・ペア学習(共有)の重視</p> <p>○課題意識(問い・思いや願い)をもたせるための導入の工夫</p> <p>○既習事項を活用する場の設定</p> <p>○根拠を明確にして考える場の設定</p> <p>○比較関連させる場の設定</p> <p>○図・表・グラフ当の資料の活用</p> <p>○基本的な学習の流れの徹底</p> <p>「課題把握ー自力解決ー学び合い(共有)ーまとめ(振り返り)」</p> <p>○自らの学びを振り返り、次の学び・行動につなげる学習の重視</p> <p>・授業のまとめの時間の工夫</p> <p>・自己評価の重視</p> <p>○基礎学力の確実な定着</p> <p>・BD・タブレットの活用</p> <p>○タブレットを活用した学習の充実</p> <p>・デジタル教科書の活用</p> <p>・ソフト・アプリの活用</p> <p>・タイピング能力の向上</p> <p>◆地域に根ざした立川市民科の単元開発の推進</p> <p>◆学級会活動の充実</p>	<p>○左記に関する保護者及び児童アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p> <p>※学力確認テストを関連させて評価する。</p> <p>◆成果目標「課題解決力」の自己評価については、今年度から、意識調査だけではなく、国語の学力確認テストの結果も含めて行いました。</p> <p>◆カッコ内は意識調査のみ結果です。</p> <p>◆同テストの数値目標は設定していないので、自己評価については考察欄に記述式でまとめました。</p> <p>○左記について、教員を対象として、学年・学級の発達段階や実態に即した取組状況を記述式アンケートを実施する。肯定的な回答を8割以上にする。</p>	<p>B (C) 67</p> <p>C 65</p> <p>C 63</p> <p>A 80</p> <p>A 100</p> <p>A 95</p> <p>B 89</p>	<p>◆意識調査では「C」であったが、学力確認テストの結果は向上したといえるので、「B」とした。</p> <p>◆児童と保護者から、肯定的な回答が7割を超えなかったが、本校が今年度重視した「比較・関連付けける力」が3ポイント上がった。</p> <p>◆児童からは、肯定的な回答が8割程度ある一方、保護者からは、4～5割台であるが、昨年度と比較して、表現する力と「比較・関連付けける力」の育成に重点をおいていく必要がある。(下記以外は今年度同様とする)</p> <p>○「子どもに委ねる授業」をテーマに、子どもたちが主体的かつ協働的に学ぶ時間の重視</p> <p>○デジタル教科書や協働学習支援ツールの活用方法の明確化</p> <p>◆東京ベーシックドリル(算数)に関して、一学期は昨年度同時期と比較すると、全学年良い結果ではなかったが、朝のワーキングタイムやタブレットを活用したドリル学習、放課後の「のびっ子」を充実させた結果、上2学期の比較(以下同比較2)については約10～18ポイントアップした。昨年度と同集団での比較2では、3つの集団で上回った。</p> <p>◆来年度、保護者とも連携してAI機能を搭載したデジタルドリルを活用して引き続き、基礎学力の向上を図っていく必要がある。</p> <p>◆今年度積み重ねてきた立川市民科の学習を一層充実させて、「社会参画力」を更に高めていく必要がある。</p>	<p>◆考察の内容は概ね妥当である。</p> <p>◆「楽しく」「子どもにゆだねる授業」など、子どもたちに主体的な高めるとはできていない。</p> <p>◆デジタル導入は子どもたちの興味関心を増す傾向にある。デジタルとアナログの使い分けで学習に変化が出るようにする。</p> <p>◆低学年のICT活用の場合、効果的でない場合もあるので、発達段階に即した活用やデジタル以外の学習方法の運用も考える。</p> <p>◆成果目標と教員による取組目標の評価が大きく異なる原因として、保護者への情報提供不足が考えられるが、取組目標が適切か等も考えながら、長い目で見ていく必要がある。</p> <p>◆教員が熱心に教えているが、その成果がまだ顕著に現れていないように感じる。</p> <p>◆立川市民科の学習により、それ以外の学習も前向きになっているように思う。</p> <p>◆学力確認テストを行うことで、学力の向上につながってきているように思う。</p> <p>◆国語以外の算数等も学力確認テストが出来たらいと思う。</p> <p>◆社会参画力は、児童と保護者で意識に乖離が見られる場合は、その原因を分析し手立てを講じる必要がある。子どもの意識の向上が見られる内容が保護者に伝わっていないのであれば、保護者にその内容が正確かつ効果的に伝える方法を考える必要がある。</p> <p>◆話す聞くで重要なことは、感情感覚への影響であり、それによって起こる身体的な変化の自覚で、話を話す聞くことによる理解と納得につながる。「腑に落ちる」とは身体的な感覚なのでそこに注目できるといえる。</p> <p>◆保護者とも一緒に、学力アップに取り組めるとよい。</p>	<p>◆教員の授業改善に向けた取組(肯定的な評価10%)や子どもたちの頑張りに、学力が向上した面も把握できているが、児童や保護者の意識として実感できていない部分があるので、以下の方針で来年度、授業改善に取り組む。</p> <p>◆読む話す聞く活動を重視し、ICTを活用して、楽しく主体的に考え表現して学習できるようにするとともに、「比較・関連付けける力」の育成に重点を置き、以下の点から授業改善を推進する。</p> <p>◆なお、授業研究部とICT学力推進委員会が連携して具体的な取組を行う。</p> <p>●すべての教科のベースとなる国語力の向上</p> <p>●新生仕様「子どもに委ねる授業」をテーマに、子どもたちが主体的協働的に楽しく学ぶ場の設定・充実</p> <p>●デジタル教科書と協働学習支援ツール等の「デジタルツール活用」の充実と実践的活用</p> <p>●「比較関連させる場面」や「既習事項の活用」</p> <p>●楽しく学び意欲を高める学習環境と手だての工夫</p> <p>●学びを振り返り次時へつなげるまとめ学習の重視</p> <p>●企業と連携した、国語の「学力確認テスト」の活用</p> <p>●保護者の方との連携の下、家庭学習やAI機能を搭載したデジタルドリルの活用を推進</p> <p>◆個人面談や保護者会等を通して、「学力確認テスト」をコミュニケーションツールとして、子どもたちの学力や取組の状況について共通理解を図る。</p> <p>◆学校よりやHPを通して、子どもの学力や学習の様子、学力向上策の状況を情報提供する。</p> <p>◆授業参観については、学期一回実施し、その際授業のねらいや身に付けさせたい力を事前に知らせるとともに、保護者会にセットにする。</p> <p>◆表現力推進委員会や、立川市民科と学級会活動を中心に、子どもたちの思いや願いを大切に探究的な活動や自発的自主的な活動の充実を図る。</p> <p>◆立川市民科では以下の点から充実を図る。【※1】</p> <p>●各教科等の重点単元との関連を明確にしたカリキュラムマネジメント表を活用・改善を図るとともに、子どもたちの状況に即した単元構想をする。</p> <p>●保護者・地域と連携・協働した学習の充実を図る。</p>
		豊かな心の向上	<p>◆自尊感情や自己肯定感を高め、自信をもって行動できるように、今後も引き続き、互いの良さを認め合う場面や自分の良さを発揮する場面を多く設定するとともに、行動する前の励ましややる気にかける声掛けを的確に行う。</p> <p>◆児童への指導に当たっては、「認める・ほめる・価値付ける」という3つの段階を踏まえる。</p> <p>◆8つの「ゆたかな心」のうち、各クラスの課題である「ゆたかな心」に着目し、その解決を図る取組を具体的に設定する。</p> <p>◆全校的に課題である、「困っている児童に声をかけた大人に相談したりする心」を育てることは重要であり、いじめの未然防止にもつながるので、その心を育てるための取組を年3回のふれあい月間と関連させて、校長講話及び全校的な取組を行う。</p> <p>◆いじめ防止に向けた取組の推進では、今後も引き続き、保護者と連携しながら、いじめ防止対策委員会を中心に、組織的に取り組む。</p> <p>◆本校の状況に即した情報リテラシー及びモラルを設定する。</p> <p>◆学校における働き方改革の推進を図りながら、学習指導要領の内容に沿った学力向上・授業改善を図るために、学校行事の精選を図る。</p>	<p>◆自己肯定感を高める力の向上</p> <p>○左記に関する保護者及び児童アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p> <p>◆自己肯定感を高める言葉かけの重視</p> <p>◆自分たちのよさを自覚し発揮し認め合える場の設定</p> <p>◆自分自身を振り返り次につなげていく取組の重視</p>	<p>○左記に関する保護者及び児童アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p> <p>◆児童及び保護者アンケートから、肯定的な回答が8割に届かなかった。</p> <p>◆同アンケートから、「自分の良さを認識」は同回答が9割前後であるが、「自分の行動や発言に自信」は6割台である。</p> <p>◆子どもたちは自分の良さについての認識はあるが、そのことが自信にはなっていないと考えられる。</p> <p>◆教員アンケートから、肯定的な回答が9割を超えた。</p> <p>◆同アンケートの記述欄から、学級活動や朝・帰りの会を中心に、具体的に良さを認め合う場を設定するようにしている。</p> <p>◆校長講話を受けて、全校的に友達の良い所見つけを行った。</p>	<p>B 79</p> <p>A 90</p> <p>A 100</p> <p>A 92</p>	<p>◆自分の良さを自覚し発揮する場面を増やしていく必要がある。</p> <p>◆具体的な行動につながるように、自尊感情や自己肯定感を高めるために、今後も引き続き、互いの良さを認め合う場の設定に加え、自分の良さを発揮する場面を多く設定していく必要がある。</p> <p>◆児童への指導に当たっては、「認める・ほめる・価値付ける」という3つの段階を踏まえていく必要がある。</p> <p>◆子どもたちが教員の顔を伺ったり指示待ちになったりすることがないように、教員の人権意識をさらに高める必要がある。</p> <p>◆子どもたちが「ゆたかな心」を意識させることはたいへんよい。</p> <p>◆ゆたかな心を育てるために、校長講話をはじめとした全校の取組はすばらしい。</p> <p>◆保護者との連携にはもちろん、地域を巻き込んでいくことも必要である。</p> <p>◆8つの「ゆたかな心」のうち、各クラスの課題である「ゆたかな心」に着目し、その解決を図る取組を具体的に設定する。</p> <p>◆全校的な課題である、「困っている児童に声をかけた大人に相談したりする心」の育成やいじめの未然防止のために、年3回のふれあい月間において、校長による全校道徳及び全校的な取組を引き続き行う。</p> <p>◆いじめの早期発見・早期対応に向けた取組では、今後も引き続き、保護者と連携しながら、いじめ防止対策委員会を中心に、組織的に取り組む。</p> <p>◆道徳授業地区公開講座では、学校における働き方改革の観点から平日開催とするが、学校と保護者・地域の方々と車庫になって、子どもたちの心について直接的に意見交換をする場を設定する。【※2】</p> <p>◆教職員の人権感覚をさらに高められるように、校内OITや校長通信等を活用して、研修を深める。</p>
地域と共に進む学校づくり	<p>◆新しく設置する表現力推進委員会を中心にして、以下の点から立川市民科の充実を図る。</p> <p>○今までの指導計画を見直し充実を図るとともに、カリキュラムマネジメントを意識して、他教科との関連を明確にする。</p> <p>○保護者・地域と連携・協働した学習の充実を図る。</p> <p>◆学校における働き方改革の推進を図りながら、学習指導要領の内容に沿った学力向上・授業改善を図るために、学校行事の精選を図り、新しい形で保護者・地域の方を対象にした学校公開の方針・方向性を明確にする。</p> <p>◆「自転車教室」は、本校が置かれている地域の実情に即して、PTAや地域関係機関と役割分担しながら、連携・協働して実施する。</p> <p>◆今年度から実施している年間2回の保護者個人面談を来年度も継続して実施するとともに、日常的な報告・連絡・相談を含め、保護者・地域のニーズに寄り添い、きめ細やかで親身になった丁寧な対応を心がける。</p> <p>◆ICTを活用して、学校ホームページ等を通して、タイムリーな情報提供や意見把握を推進していく。</p>	<p>◆保護者・地域との協働体制の強化</p> <p>◆学校・家庭・地域が連携・協働した取組の推進</p> <p>◆地域に根ざした立川市民科の単元開発の推進【再掲】</p>	<p>○左記に関する保護者等アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p> <p>○左記について、学年・学級の発達段階や実態に即した取組状況を記述式アンケートを実施する。肯定的な回答を8割以上にする。</p>	<p>A 85</p> <p>A 90</p> <p>A 94</p>	<p>◆保護者アンケートから、肯定的な回答率が9割に届かず、8ポイント下がった。</p> <p>◆教員アンケートから、肯定的な回答が8割を超えた。</p> <p>◆同アンケートの記述欄から、学校公開の趣旨を踏まえて、創意工夫している様子がうかがえた。</p>	<p>◆「保護者・地域との協働体制の強化」に関しては、比較的高い評価をいただいたが昨年度より下がったので、今一度立川市民科等で、地域と連携した学習活動を通して、協働した学習の取組を推進していく必要がある。</p> <p>◆今年度から実施している、新しい形の、立川市民科学習発表や音楽発表、作品発表の在り方について、そのねらいを踏まえ、さらに充実させていく必要がある。</p> <p>◆保護者・地域との双方向の関係の充実」に関しては、数ポイントあがったが9割に届かなかったことから、今後は今まで以上に、様々な状況に即して、親身になった直接的なやり取りを重視し、情報連携・行動連携を図っていく必要がある。</p> <p>◆さらに、ICTを活用し、タイムリーな情報提供や意見把握をより一層推進していく必要がある。</p> <p>◆保護者・地域・学校の状況に即して、連絡・協働体制を強化するとともに、教育活動の充実を図るため、学校における働き方改革を推進しながら、業務の重点化・焦点化・簡素化をさらに推進していく必要がある。</p>	<p>◆立川市民科については、前述した通り(※1)充実を図る。</p> <p>◆今年度から実施している新しい形の学校行事は引き続き実施するが、立川市民科学習発表や音楽発表の発表は同日と、子どもたちにとっても負担なこと、両方参観したい保護者にとって残念な面もあった。◆精選した新しい形の学校行事や学校公開については、時間も必要なので、丁寧に知らせることが大切である。</p> <p>◆6年生の立川市民科としての感謝祭などの取組はすばらしい。</p> <p>◆子どもたちが地域の役に立っていたと実感できるような取組に期待している。</p> <p>◆地域との関わりをもっと増やしてほしいと思う反面、学校の負担を考えるとこれくらいがよいと思う。</p> <p>◆保護者の方が「地域への愛着」や「市民社会への貢献」をどのように思っているかが子どもたちに強く影響しているように感じる。保護者の方へのアプローチを粘り強く続けてほしい。</p> <p>◆地域活動で多くの子どもたちを見かけるようになった。</p> <p>◆学校とPTA・地域が、無理せずに、広く浅く関わりをもつことを増やす必要がある。</p> <p>◆保護者も「自分たちの学校」と感じられる取組があるとよい。</p>
		<p>◆保護者・地域との双方向の関係の充実</p> <p>◆学級からの通信や保護者会の充実等による教育活動の広報の充実</p> <p>◆組織的な学校HPの改善・充実</p> <p>◆相手の思い・願いや立場を踏まえて親身になった対応</p> <p>◆根拠を明確にして説明責任を意識した対応</p>	<p>○左記に関する保護者等アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p> <p>○左記について、学年・学級の発達段階や実態に即した取組状況を記述式アンケートを実施する。肯定的な回答を8割以上にする。</p>	<p>◆保護者アンケートから、肯定的な回答率が9割に届かなかった。</p> <p>◆昨年度と比較して、3ポイントではあるが向上した。</p> <p>◆教員アンケートから、肯定的な回答が8割を超えた。</p> <p>◆同アンケートの記述欄から、昨年度以上に、児童の状況に即して、保護者の方と連絡帳や電話等で、こまめにやり取りしたという意識の教員が多い一方、連絡・面談等の時間設定に苦慮している様子が昨年度に引き継がうかがえた。</p>	<p>A 87</p> <p>A 94</p> <p>A 100</p>	<p>◆保護者アンケートから、肯定的な回答率が9割に届かず、8ポイント下がった。</p> <p>◆教員アンケートから、肯定的な回答が8割を超えた。</p> <p>◆同アンケートの記述欄から、昨年度以上に、児童の状況に即して、保護者の方と連絡帳や電話等で、こまめにやり取りしたという意識の教員が多い一方、連絡・面談等の時間設定に苦慮している様子が昨年度に引き継がうかがえた。</p>	<p>◆「保護者・地域との双方向の関係の充実」に関しては、比較的高い評価をいただいたが昨年度より下がったので、今一度立川市民科等で、地域と連携した学習活動を通して、協働した学習の取組を推進していく必要がある。</p> <p>◆今年度から実施している、新しい形の、立川市民科学習発表や音楽発表、作品発表の在り方について、そのねらいを踏まえ、さらに充実させていく必要がある。</p> <p>◆保護者・地域との双方向の関係の充実」に関しては、数ポイントあがったが9割に届かなかったことから、今後は今まで以上に、様々な状況に即して、親身になった直接的なやり取りを重視し、情報連携・行動連携を図っていく必要がある。</p> <p>◆さらに、ICTを活用し、タイムリーな情報提供や意見把握をより一層推進していく必要がある。</p> <p>◆保護者・地域・学校の状況に即して、連絡・協働体制を強化するとともに、教育活動の充実を図るため、学校における働き方改革を推進しながら、業務の重点化・焦点化・簡素化をさらに推進していく必要がある。</p>